



八千代市郷土歴史研究会
 会長 村田一男
 事務局 八千代市勝田台3-24-10 牧野方

お知らせ

**平成19年度
 定期総会と会員発表会のお知らせ**

4月15日(日)
定期総会 10:00~12:00
会員研究発表会 13:30~16:00
 八千代市立郷土博物館にて

会員の皆様には、このお知らせをもって総会開催通知といたします。ご欠席の方は委任状を事務局までお送りください。

2月25日(日) 八千代市立郷土博物館にて
拡大役員会 AM10:00~12:00
 ・19年度事業計画について
 ・役員のほかどなたでもご参加ください

例会 PM 13:00~16:30
 ・会員全員による白井家文書解読と整理の概要
 ・大和田新田調査研究の課題について

3月18日(日)
木下のまちかど博物館めぐり
集合 JR 木下駅改札口 10:10*

・土蔵・町屋の保存と活用、地域の歴史資料の調査を行っている「木下まち育て塾」会員のご案内で、木下~六軒地区の歴史を探訪し、また木下まち育て塾の市民の活動について学びます。

・コース:中央公民館~瀧田まちかど博物館~巖島神社~木下河岸跡~銚子屋(昼食)~吉岡まちかど博物館~武蔵屋まちかど博物館~木下駅 16:07 発 (17:16 勝田台)

・会費(昼食込み千円)
 ・定員25名 先着順に受付します

*勝田台発09:05特急 JR成田発09:46に乗車

「白井富美子家文書」解読研究事始
 村田一男

2月旧正月の今、新年明けましておめでとうございます。今年も大和田新田総合研究を楽しく続けましょう。

大和田新田という村の土地所有関係、名主善兵衛の村政やいかに、今とは違う明治初期の土地所有状態など思わぬ事柄が浮かび挙がってくるのではないかなど、夢と期待を持って仮説が膨らみます。古文書解読が待っています。

「白井富美子家文書」解読研究のグループリーダーは年末に5名の方をお願いしたところです。解読研究日程は、1月7日(日)の「新宿山手七福神めぐり」終了時に1~2月の日程を提示しました。

解読研究の方法は、設定日に集まっていた会員が、リーダーのどなたかに所属して作業に取り組んでいただくというかたちで1月11日から作業を開始しました。10名が参加しました。

その後、1月18・20・31、2月7日と活動をかさね、延べ59人が参加しています。

会場は郷土博物館図書資料室、狭い室内で一点一点の文書と真剣に向き合い、リーダーに読み方をおそわりながら解読格闘し、規定にしたがって筆写するという根気の要る作業です。

初めての会員、慣れている会員さままで、古文書そのものを学習する教材とは違い、何も判っていないナマの古文書を読み解き、難解さの中にも用語、人名の類似性や法則性がだんだんわかってきて興味がどんどんわいてくるという、大変さも乗り越えながらの知的作業に毎回熱気あふれる状態です。

現在、筆写完了は約15点、たとえば「大割勘定帳」という文書が多く、村内と周辺の持ち添え百姓に年貢負担を割りつけていて、これらの文書の百姓名を集計すると土地所有関係が見えてきて、村の様子がさらにわかってくるのではないかと思います。

この解読研究作業は、初めての人でもリーダーに付いて書き取りなど面白くできます。19年度の活動のひとつとして毎週1日程度で作業を展開していきますので、どうぞご参加ください。

(補足 次ページ参照)

3月の白井家文書解読作業予定
7日(水)・13日(火)・23日(金)・27日(火)
 いずれも午前10時~午後4時

(前ページより)

「白井家文書」解読研究補足

解読対象文書

白井家文書総数170点のうち『八千代市の歴史』に掲載されている文書および解読済みの下記の文書は対象外です。

No. 17・57・68・88・93・95・96・106・108・109・114・115・159・160



1月31日の解読作業

グループリーダーと分担

・牧野・関和さん

2～96、主として善兵衛組・善兵衛両組・善兵衛が差し出し、作成したもの。

・菅野さん

上記のうち、伊三郎組が差し出し、作成したもの。

・畠山さん

明治期の 97～102の「地価一筆限帳」・「地引帳」など、および126～135。

・滝口さん

103～125 および 136～170のなかで必要なもの。

活動報告

18年度 郷土史展盛況に終了

11月18日(土) 午後1時～5時

19日(日) 午前9時～午後4時

勝田台文化センター 2階展示室にて催された18年度郷土史展「旧村のすがた・大和田新田研究」は、盛況に終了しました。

・18日の参加者：会員29名・お客様99名(アンケート提出者のみ)

・19日の参加者：会員28名・お客様103名(アンケート提出者&市長・秘書)

2006年12月17日(日) 例会

午後1時～4時、29名が参加して郷土博物館にて、市民企画展「新四國を歩く」を見学後、古文書の基礎学習と大和田新田に関する史料の解読実習、さらにまだ未解読の白井家文書史料を実見し、今後の解読作業の計画について話し合いをしました。

また、5時から勝田台にて忘年会をにぎやかに行いました。

平成19年末明 大和田新田両区の八幡神社に初詣 藤 由美

例年になく暖かく、おだやかに明けた2007年ですが、本年も昨年に引き続き、大和田新田を調査するに当たって、牧野事務局長・板倉会員・藤の3名で、地元の産土様上区と下区の両八幡神社の元旦祭に参加し、本会の名前でお酒を奉納、地域研究の発展と皆様のご健勝を祈願してきました。

大晦日の 午後11時ごろ、ライトアップされた下区の八幡神社へ。鳥居の下の道路沿いで長時間待つ参拝者に地域を知ってもらおうと、下区青年会が展示に力を入れていて、うれしいことに、本会の「史談八千代」31号の大和田新田の地名や屋号地図の拡大コピーなども展示してありました。

続いて、上区の八幡神社へ。こちらにもたくさんの参拝客が並び、新年午前0時、鏡割りで元旦祭がスタート。境内には郷土史展で展示した「新木戸祭り」の写真パネルが飾られてあり、私たちの活動の成果が地元の若い方々に生かしていただいている事に感激しました。

地域の方々との交流、青年会心づくしのお汁粉と甘酒で、心もお腹も温まり、仲間と共に新年を迎えられてよかったです。

平成19丁亥年1月7日(日) 新春恒例七福神巡り 酒井正男

今年の七福神巡りは、新宿を冠した「新宿山手七福神」で昭和中期に創設された新宿区内の山手地区を巡る8kmのコースである。

地下鉄東西線飯田橋駅(B3出口)に午前10時集合。当日は前日の荒天と打って変わる好天に恵まれ、全員24名、一般参加8名の総勢32名の方々が参集された。村田会長、案内人小菅さんの挨拶がすみ神楽坂方面へと出発。

善国寺(毘沙門天)

この寺は、毘沙門天像を安置し、「神楽坂の毘沙門天」として江戸時代から信仰が篤く神楽坂一帯はその門前町として発展してきた。特に、毎月縁日は人出で賑わい夜店もここが始まりとされている。

光照寺

地藏坂を登る。この付近は見晴らしの良い高台で、東京湾に出入りする船が望見できたと伝えられている。境内には文政8年(1825)神田の旅籠紀伊屋が旅籠で客死した旅人を供養して建立した「諸国旅人供養碑」がある。表面の「南無阿弥陀仏」の六字の名号は徳本上人自筆と思われる徳本の花印のある独特の文字が刻まれている。

尾崎紅葉旧居跡等

袖摺坂を登り横寺町の紅葉晩年の地を訪ねた。路地は狭くほど江戸時代のまゝで、袋町、細工町、矢来町筆筒町など地名の改廃が少ない地形的に坂の多い町並みが特に印象深かった。

浄輪寺

境内には、江戸時代中期の和算家で「関流算法の祖」と仰が

れた関孝和の墓がある。

多聞寺

境内には、新劇女優、松井須磨子(本名小林正子)の墓があり、また、江戸八十八ヶ所霊場巡りの開祖伝燈阿闍利の墓と供養塔がある。

経王寺(大黒天)

大黒天は慶長3年(1598)現在地に安置された。お堂は焼けても大黒天像は残ったので「火ぶせの大黒天」と崇められ、今でも庶民の間で親しまれている。

墓地の奥に廃寺に抗議した殉教者の「豊屋太兵衛」の墓がある。切腹に使われた畳包丁は寺に伝わっている。

稲荷鬼王神社(恵比寿神)

大江戸線の牛込柳町駅から東新宿駅まで電車で移動する。このあたりは、高層ビルが林立するビジネス街や個性的な飲食店等がひしめく街で活気あるショッピング・ゾーン、少し足を伸ばせば静寂な新宿御苑等さまざまな魅力をもっている。また、伝統のある神社仏閣等点在しており、時代や文化の面影をたどる道しるべとなっている。

神社の入り口には、邪鬼が頭上の水鉢を支える珍しい手水鉢がある。稲荷様なので商売繁盛の神様で水商売の店に勤める人々がよく参詣している。



稲荷鬼王神社(恵比寿神)

永福寺(福祿寿)

慶安元年(1648)創建と伝えられる。境内には新宿では珍しい金銅の仏像と菩薩像が静かに迎えて下される。一つは宝暦

6年(1853)4月に建立の大日如来座像で長谷川国得により鑄造された。他の一つは地蔵菩薩の半跏趺座像で嘉永6年(1853)4月に造立されたことが分かる。

また、元禄11年(1698)に寄進された庚申塔や六角柱の他面六地蔵を浮彫りにした石幢が目についた。

巖島神社(弁財天)

境内の南北に通り返られることと、苦難を切り抜ける御利益があり。通称「抜弁天」の名前の方が有名。この付近一帯は將軍綱吉の「生類憐れみの令」に基づいて元禄7年(1694)広大な犬小屋が建てられていた。

法善寺(寿老人)

日蓮宗の寺院で、本堂には極彩色の「七面明神像」が安置されている。江戸で最初に祀られた七面明神といわれている。

西向天神社

太宰府の方へ向かい社殿を西向きに造っているために呼ばれた。

境内の西隅に天保13年(1842)構築といわれる。富士講からきた富士塚がある。

大聖寺

西向天神社の別当寺。神仏分離で分かれる。かなり寂れた感がある。この寺の横奥に、太田道灌へ山吹の花と句を渡したとされる少女「紅血の碑」がある。短い石段の寺へ行く参道に「山吹坂」と名前がついている。山吹が咲き乱れているわけではない。

正受院

境内のすぐ右手のお堂に奪衣婆像が鎮座し、咳などに霊験あらたかとして幕末の頃は大いに信仰を集めていたといわれる。

成覚寺

靖国通りに面し正受院と隣り合っている。境内には、恋川春町の墓に並んで通称「旭地

蔵」がある。この地蔵は、寛政の頃玉川上水に入水した人々の供養に建てられたもの。

この寺はかつて「投げ込み寺」といわれ年季途中で亡くなった飯盛女を弔った。

その女たちを慰めるため寛政12年(1800)に建てられた。

「子供合埋碑」の供養碑がある。「子供」というのがこの女たちのことで抱えの子供である、という考えからきている。

大宗寺(布袋尊)

この寺は新宿には珍しく大きな境内を誇る寺である。境内に入ってすぐ右に、大きなお地蔵様の座像がある。江戸時代の前期、江戸出入り口六ヶ所造立された「江戸六地蔵」のひとつで正徳2年(1712)9月にその3番目として甲州街道沿いに造立された。



大宗寺地蔵座像

右側のお堂に「内藤新宿のお閻魔さん」として有名な都内最大の閻魔大王像と「葬頭河の婆さん」と呼ばれる奪衣婆像が祀られている。

この大宗寺で今回の七福神巡りも満願である。午後3時過ぎ会長の挨拶で無事解散。七福神巡りに加え多くの寺社の史跡等にふれることができ、参加者一人ひとりが有意義な一日を過ごすことができた。

案内役の小菅さん、鈴木さんお疲れ様でした。

習志野俘虜収容所と
小池民次先生
佐久間 弘文

「今よりは 心静かに迎れ
かし 仏の道を たが
えて」

明治 34 年 4 月、千葉県高等
女学校の創設第 1 回の入学を
許されながら、その年 8 月に病
死した島田の若き女学生の死
を悼んで、同校教頭小池民次先
生が「じょう子を弔う」と題し
て冒頭にかかげた歌を詠み彼
女の墓に刻した(通信第 45 冬
号 4 ページ参照)。

小池民次先生は千葉県教育
界の功労者で、安政 5 年鶴舞藩
士族を父として浜松に生まれ、
11 歳で現在の市原市牛久に移
住、藩校に学び 16 歳で教員、
千葉師範学校を抜群の成績で
卒業ののち同校教師を務め、明
治 33 年千葉高等女学校設置の
とき主席教諭となった。その後
県立東金高等女学校長、千葉高
等女学校長を経て退職後は私
立一宮女学校を興すなど県下
の教育界に大きな足跡を残し、
昭和 11 年 79 歳で没した。

一昨年(2019)の 4 月、東京上野の古
書店で先生の著書『真善美』を
偶然手にした。昭和 7 年 10 月、
日本学術普及会が発行した
176 ページ、B 6 版の小冊子で
ある。

この書の中に小池民次先生
が習志野の俘虜収容所を視察
したときの二つのエピソード
が記されている。

一つは「瓶詰細工」いわゆる
「ボトルシップ」の製作にまつ
わるドイツ俘虜の生活のこと、
一つは第一次世界大戦前に現
在のサントリー山梨ワイナリー
に技師として招かれ日本産
ワインの醸造を指導したハイ
ンリッヒ・ハムのことであった。

習志野俘虜収容所といえば、

習志野市教育委員会の星昌幸
氏の優れた研究や、当研究会員
の努力によって一枚の写真に
映った収容所のドイツ兵の遠
足先が「御滝不動」であったこ
とを突きとめたことなどが思
い浮かぶ(通信第 41 冬号 4 ペ
ージ参照)。

小池民次先生とわれわれの
奇しき縁を感じつつ『真善美』
を星昌幸氏にお見せしたとこ
ろ、氏はただちに全国各地の捕
虜研究を結んだサイトに同著
の中から該当する部分を原文
のまま紹介された。

なお先生の晩年の著書『真善
美』から「自序」とする最初の
1 ページ全文を転載してみたい。
昭和 7 年に書かれた文章だが、
それから 75 年を経た今も
我われの耳に痛い。

「現今我が國は、高度の文明
を以て誇り最大の富強を以て
任ずる英米諸國と相伍しても
毫も遜色なきに至れりと雖も、
苟くも國民の道義にして衰退
せんか前途寒心に堪へざるも
のあり。

蓋し國家の衰退に傾き滅亡
に陥るに先んじて國民の道義
漸く衰退するを常とす。古の希
臘羅馬然り支那夏殷周以来の
興亡等皆然らざるはなし。而し
て道義は要するに真善美を以
て一貫するにあらざれば、道義
の意氣を完うせず。然るに真善
美を説くもの抽象に馳せて日
常一般の實踐に便ならず。依り
て茲に貴賤上下の別なく一般
の事實に適用せんことを計り、
極めて通俗的に真善美の實際
に現はるべき所以を説述し國
民の道義の向上に資する所あ
らんとせり。著者の不敏を咎む
る所なく一片の微意の存する
所を諒とせらるれば至幸とす
る所なり。」

昭和七年十月一日

小池民次

生れ変わる高津観音堂周辺
鈴木 登

吉橋霊場第 71 番札所であり、
高津姫伝説にも繋がる観音像、
「埋め墓」などで研究会とは永
年のお付き合いであった「高津
観音堂」およびその周辺が新し
く生れ変わろうとしています。

佐久間会員から観音堂周辺
が大工事中との連絡があり、1
月 25 日、急遽現地に集合した
牧野副会長・清水・平塚・佐久
間・鈴木はあまりの周辺の異変
にびっくりしました。どうやら
観音堂周辺は新しく墓苑とし
て大整備されていくようです。



上の写真のように既に正面
の階段は撤去され、この後は階
段左右の石塔群、参拝・石経書
写の供養塔、大師堂などの石塔
はすべて同じ構内の別の場所
に配置される模様です。

観音堂は現在の姿を維持し
つつ補強工事が行われるとの
ことでした。幸いにも工事関係
者は石塔などの撤去・移転に細
心の注意を払ってくれている
ようですが、思い出が多い観音
堂とその周辺を偲んで経過報
告いたします。

= 新入会員紹介 =

小林千代美 八千代台西在住
松本 敏浩 船橋市日の出在住

~~ 編集後記 ~~

変わりゆくムラと街のたたず
まい、変わらぬ人々の心を追って
19 年の地域研究がスタート。

また新たな発見が楽しみです。

by: 蕨

sawarabi-y@nifty.com